

平成30年度 学校評価報告書 (目標設定・実施結果)

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価 (月 日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
1 教育課程 学習指導	<p>①生徒がより主体的に活動を行い、課題解決に必要な思考力・判断力・表現力を身に付けられるように教育課程を編成するとともに授業充実を図る。</p> <p>②生徒の学習ニーズに応えるとともに、言語活動とグローバル教育の充実を図る。</p>	<p>①55分授業の導入を活用し、主体的・対話的で深い学びにより、思考力・判断力・表現力を身につけられるような授業改善の取組を進める。 ・学校行事やホームルーム活動、生徒会活動において生徒の主体性を養う目的を明確にした取組として実施する。</p> <p>②生徒に身に付けさせたい資質・能力の伸長を目指し、グローバル教育の充実を図る。</p>	<p>①研究授業や研究協議会、研修会を実施し、組織的な授業改善の取組を進める。 ・学校行事やホームルーム活動、生徒会活動において生徒の主体性を養う目的を明確にした取組として実施する。</p> <p>②グローバル社会で活躍する人材としての指標「平沼グローバルコンピテンシー」を明確化し、各教科科目や総合的な学習の時間、その他の行事等を活用して生徒の資質・能力の伸長を図る。</p>	<p>①「生徒による授業評価」における「授業中、生徒同士で話し合う機会や意見などを発表する機会がある」の全教科の平均の平均が「とても当てはまる」「やや当てはまる」の合計が90%以上となるか。</p> <p>②魅力と特色ある県立高校づくりについてのアンケートにおいて、「高校生活を振り返ってみて、『学校での授業や活動が、今後の自分のために役に立つ』と思いますか」の生徒の回答の「とても満足している」～「おおむね満足している」の合計が75%以上であるか。 ・GTECのリーディング、リスニング、ライティングの3学年全員の平均が520点以上となるか。</p>					
2 生徒指導・支援	<p>①コミュニケーション能力を養い、他者への思いやりを大切に、主体的に行動できる人格を育成する。</p> <p>②生徒一人ひとりに目をむけて、適切な生徒理解に基づく生徒支援を実践するとともに、生徒が安心、安全な学</p>	<p>①部活動を一層充実させ、他者との円滑な人間関係を築いたり、課題を解決したりする力を育成する。</p>	<p>①部活動の加入を促す取り組みを進めるとともに、円滑な人間関係の構築や、課題解決力の育成ができるように部活動の充実を図る。</p>	<p>①部活動の加入率が90%以上となるか。 ・魅力と特色ある県立高校づくりについてのアンケートにおいて、「部活動で充実した活動ができたこと」の生徒の回答の「とても満足している」～「おおむね満足している」の合計が90%以上であるか。</p>					

視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容		校内評価		学校関係者評価 (月 日実施)	総合評価(月 日実施)	
			具体的な方策	評価の観点	達成状況	課題・改善方策等		成果と課題	改善方策等
	校生活を送れるように校内の整備を進める。								
3 進路指導・支援	①3年間を見通して各学年のプロセスを重視した進路指導計画を確立し、組織的・体系的な進路指導を行う。それにより、生徒がより高い希望を持ち、幅広い視野と柔軟な思考力を養い、社会において指導的な役割を果たせる素地の育成を支援する。	①生徒がより高い希望を持ち、幅広い視野と柔軟な思考力を養い、社会において指導的な役割を果たせる素地の育成ができるように、進路指導計画に基づき組織的・体系的な進路指導を実践する。	①大学の授業への参加や、外部機関や同窓会と連携して体系的に情報提供や啓発活動を実施する。 ・生徒がより高い希望を実現できるように、模擬試験や各種資格試験等の外部試験の活用を推進し、結果を踏まえての事後の指導や教育計画への反映を図る。 ・幅広い視野と柔軟な思考力を養うために、習得した知識や技能を活用する機会の充実を図る。	①「魅力と特色ある県立高校づくりについてのアンケート」において、「希望の進路に役立つ補習や講習を受けられたこと」と「学習の進め方や進路決定などについて、きめ細かなガイダンスを受けたり、相談ができたこと」の2つの項目の生徒の回答の「とても満足している」～「おおむね満足している」の合計がそれぞれ75%以上であるか。					
4 地域等との協働	①PTAや地域の教育機関との連携事業を推進し、地域の教育力を活用して地域とともにある学校づくりを推進する。 ②地域貢献活動や地域の特別支援学校等との交流を推進する。	①PTAや地域の小中学校等との交流・連携事業を推進し、地域の教育力を活用するなど地域とともにある学校づくりを進める。 ②地域貢献活動や地域の特別支援学校等との交流を深める。	①PTAや地域の小中学校等との交流・連携事業を行い、協働による教育活動を行う。 ②生徒会や部活動を中心に地域貢献活動や交流事業を推進する。	①PTAや地域の小中学校等と連携した活動を行い、地域とともにある学校づくりを推進できたか。 ②地域貢献活動の充実を図れたか。 ・地域の特別支援学校等との交流を深められたか。					
5 学校管理 学校運営	①大規模災害に備え、職員・生徒が協力して行動できる体制を整備する。 ②事故・不祥事の防止に努める。	①大規模災害に備え、防災マニュアルに基づき、職員・生徒が協力して行動できる体制を整備する。 ②不祥事ゼロプログラムを策定し、不祥事の未然防止に努める。	①防災マニュアルを見直し発災時における地域との連携も踏まえた防災計画を立てるとともに、計画的な防災教育を行う。 ②不祥事ゼロプログラムに基づき情報共有や意識改革を進める。	①防災マニュアルの見直しを行ったか。 ・計画的に防災教育を実施できたか。 ②不祥事ゼロプログラムの行動計画に基づき、事故・不祥事の未然防止を図れたか。					